

令和4(2022)年度

高等学校における教科指導充実に関する調査研究

資質・能力の育成を目指した 学習評価の充実

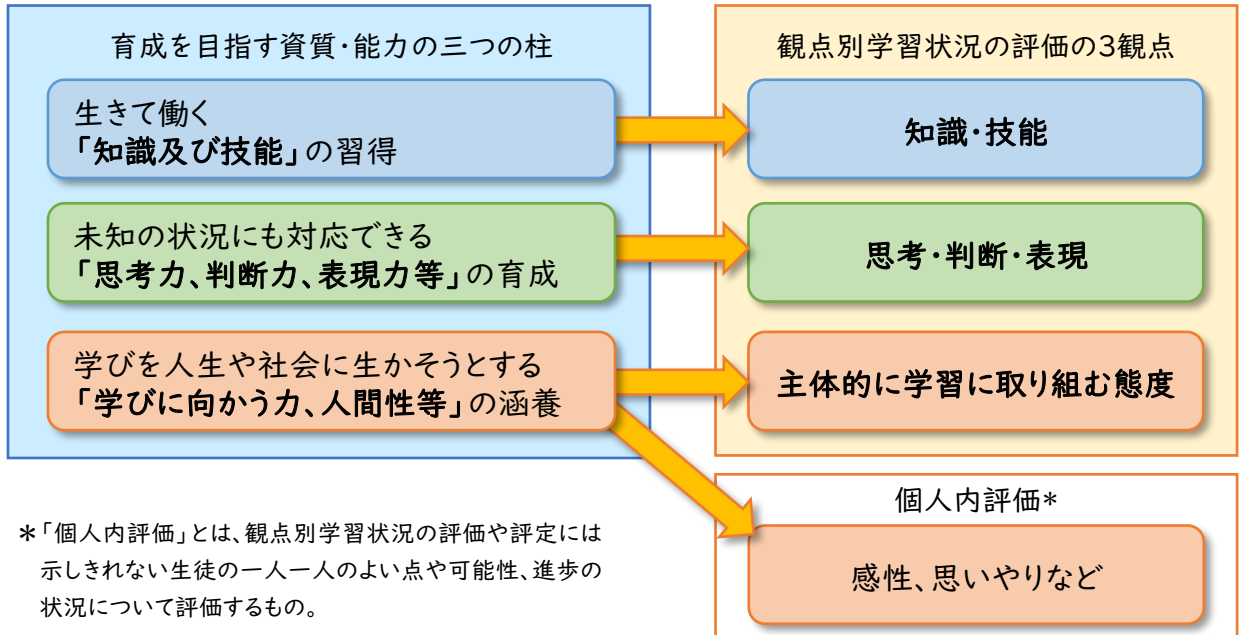


栃木県誕生150年
みんなで創る、未来のとちぎ

栃木県総合教育センター

学習評価の基本構造

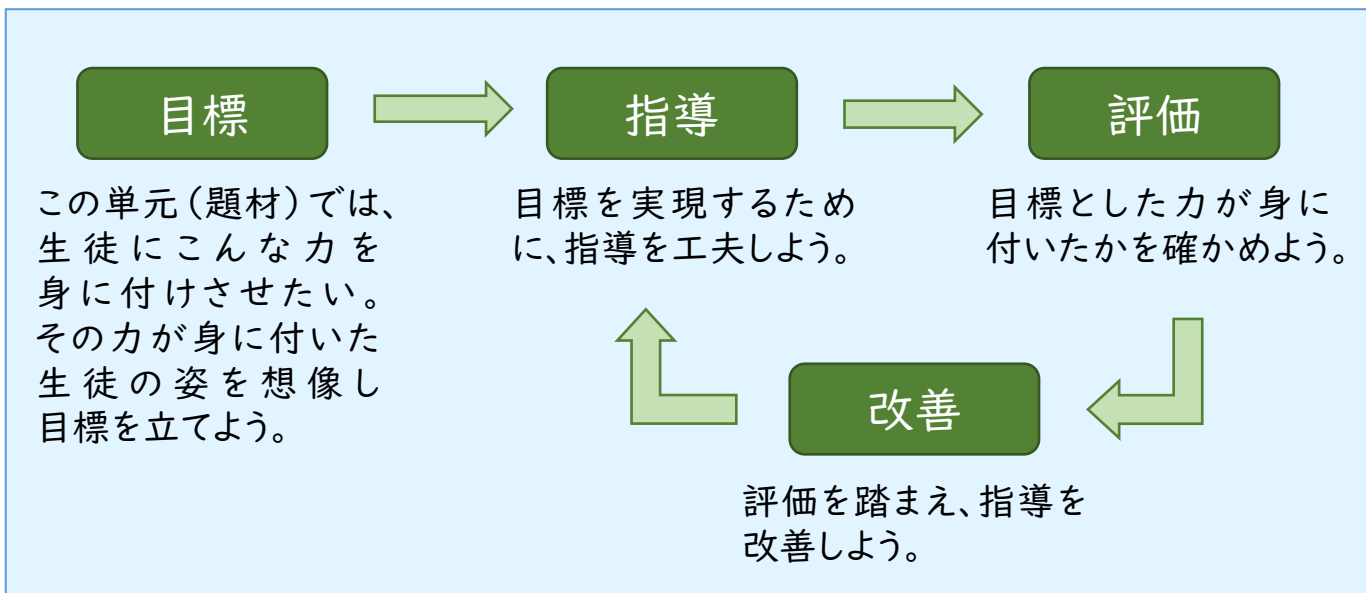
学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科等における観点別学習状況の評価の観点についても、以下の3観点に整理されました。



学習評価のポイント

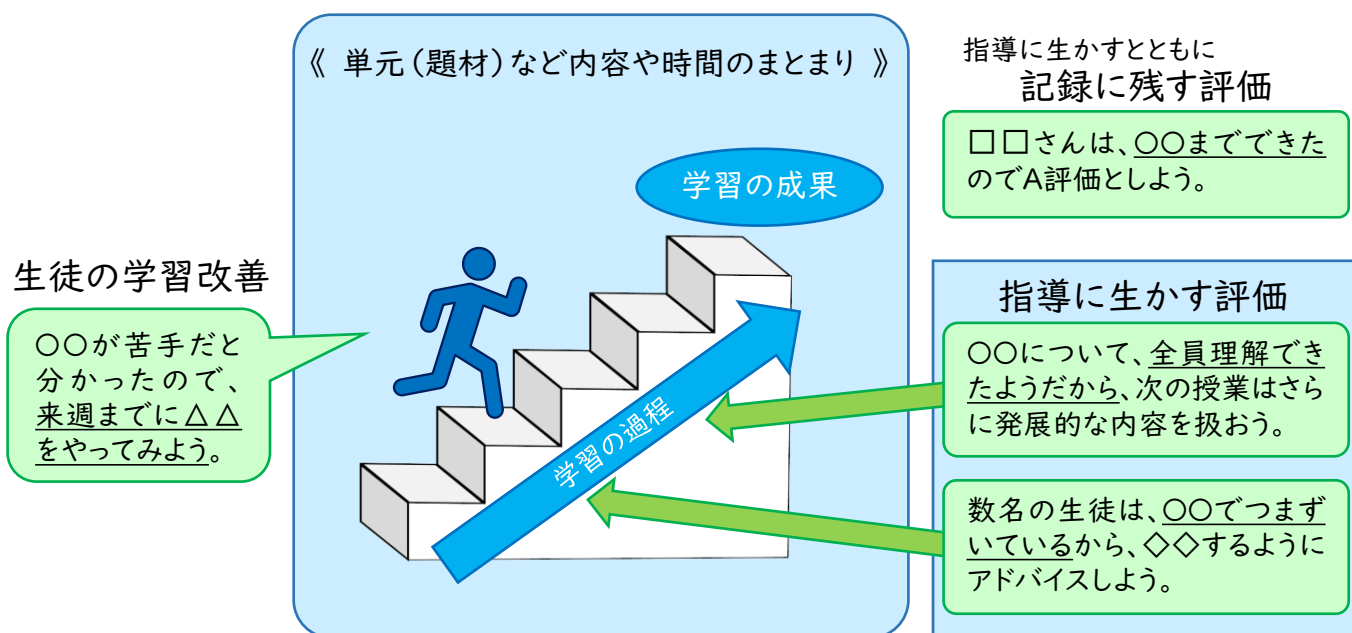
ポイント① 目標と指導と評価を一体的なものとして捉える。

- 資質・能力を育成するためには、各教科、単元（題材）、授業において「生徒に身に付けてほしいこと」を目標として掲げ、授業を実践し評価を行い、指導を改善すること、つまり、**目標と指導と評価を一体的なものとして捉えることが大切です。**



ポイント② 指導に生かす評価の充実を図る。

- 学習の成果だけでなく、**学習の過程を一層重視し、指導に生かす評価を行い、生徒が自分自身の目標や課題をもって学習の改善を図れるようにすることが大切です。**



ポイント③ 評価の場面と方法を工夫する。

- 単元(題材)など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、**評価の場面と方法を工夫することが大切です。**

《 評価の場面と方法の工夫の例 》

・論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等の多様な活動に取り組ませるパフォーマンス評価*などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない**多面的・多角的な評価を行う。**

*知識やスキルを使いこなすことを求めるような評価方法の総称。

・教師による評価だけでなく、**生徒による自己評価や相互評価を取り入れ、生徒自身の学習意欲の向上につなげる。**

記録に残す評価の具体例を観点別に紹介しています。

p.3~p.8に掲載!

評価の事例「知識・技能」

各事例の詳細は、当センターWebサイトに掲載しています。(p.10参照)

「知識・技能」は、各教科等の知識及び技能を習得しているか、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

具体的な評価方法

・ペーパーテスト

- ・事実的な知識の習得を問う問題
- ・知識の概念的理解を問う問題

・ワークシート

- ・知識や技能を用いる場面を設けて評価
- ・技能の活用場面を録音・録画 等

事例1 国語科(現代の国語)

評価方法

ワークシート

目標 論理的な文章を読み、筆者の主張やその根拠となる資料を整理して、主張と論拠など情報と情報との関係について理解を深める。

指導の工夫

筆者の主張はどのような資料をどのように組み合わせて根拠としているのかを、ワークシートに整理させた。その際、根拠としての確かさ、ふさわしさを吟味しながら、情報と情報との関係を検討する必要があることを確認させた。さらに、**個人で見いだした主張と論拠の関係を基に、具体的な論の展開の仕方をグループで話し合う場面を設定した。**

評価の工夫

論理的な文章の中から主張と論拠を示す表現を区別して、それらの関係についての**的確に記述できているかどうかを評価した。**



グループで話し合う様子

〔問い〕
筆者の主張と根拠を示し、情報と情報をどのように組み合わせ、自身の論を展開させているかをまとめよう。

〔生徒の記述〕
筆者は「安くておいしい日本をやめるべきだ」という主張を、「統計資料」とそれと関わりのある「その他の事実」を組み合わせて説得力をもたせている。

ワークシートの記述例

事例2 公民科(公共)

評価方法

ペーパーテスト

目標 ベーコンやデカルトの基本的な考え方をまとめ、合理的な思考について理解する。

指導の工夫

ベーコンやデカルトなどの思想について知識の定着を図るだけでなく、先人たちが自分たちと同様に考えていたことに気付かせ、先人の考え方を深く理解できるように、**生徒同士で話し合う場面を設定した。**

評価の工夫

単なる知識を問う問題ではなく、授業での学びを活用して、**先人の考え方を深く理解しているかを問う問題で評価した。**選択肢に「うさぎ」を入れ、概念的な知識を問うことができるようにした。

合理論の立場に立つ代表的な人物がデカルトである。デカルトは、方法的懐疑を行いその結果、「我思う、ゆえに我あり」という言葉に表現される境地に達した。そして、理性の働きこそが絶対確実な第一の原理であると主張した。この第一原理に基づいて、デカルトはすべての事象をとらえ直し、正しい論証を積み重ねることで、あらゆる知識を必然的に導こうとした。このような方法を演繹法という。

デカルトは、考える精神を一つの実体とする一方で、空間に延長する物体をもう一つの実体とした。この立場を心身二元論(物心二元論)という。このようなデカルトの考えは、精神を持つのは人間だけであり、したがって動物は機械であるという主張によくあらわれている。

〔問〕 下線部によると、次の五つは二つのグループに分けられる。どのように分けられるか、分けた結果を答えなさい。

自分 ・ うさぎ ・ 消しゴム ・ リンゴ ・ 先生

ペーパーテスト

事例3 数学科(数学Ⅰ)

評価方法

小テスト

目標 鈍角の三角比を鋭角の三角比を用いて表す方法を理解し、三角比の値の大小を比較することができる。

指導 の工夫

鈍角の三角比を鋭角の三角比で表したり、三角比の種類を統一したりするなど、三角比の値の大小を比較する方法について、**個人で考えてからグループで話し合うことによって、生徒自ら気付けるようにした。**

評価 の工夫

鈍角の三角比を鋭角の三角比を用いて表すことや、三角比の種類を統一して三角比の値の大小を比較できているかを、**小テストの記述で評価した。**

〔問い〕

次の三角比の値を小さい方から順に並べよ。

$$\begin{array}{l} \sin 10^\circ, \cos 50^\circ, \sin 160^\circ, \cos 140^\circ \\ \sin 10^\circ = \sin 40^\circ, \sin 20^\circ, \cos 40^\circ \\ \sin(180^\circ - \theta) = \sin \theta \\ \sin(180^\circ - 160^\circ) = \sin 20^\circ \\ \cos(90^\circ - \theta) = \sin \theta \\ \cos(90^\circ - 40^\circ) = \sin 40^\circ \\ \cos(180^\circ - \theta) = -\cos \theta \\ \cos(180^\circ - 40^\circ) = -\cos 40^\circ \\ \cos 140^\circ < \sin 10^\circ < \sin 160^\circ < \cos 50^\circ \end{array}$$

小テストの記述例



小テストの様子

事例4 理科(生物)

評価方法

ワークシート

目標 培地への菌の混入や遺伝子組換え生物の実験室外への流出等を防止する目的を理解しながら、観察・実験の基本的な技能を身に付ける。

指導 の工夫

各操作の目的を理解しながら実験に取り組めるように、**資料と実験器具の実物を見ながら、実験手順や器具の特徴を生徒同士で確認させた後に、**教師が操作のポイントについて補足を加えた。



実験器具を確認する様子

評価 の工夫

実験器具が滅菌されている理由や実験上の留意点について、操作したことを踏まえて**具体的に記述できているかどうかを評価した。**

〔問い〕

実際に生きた酵母菌を培地から培地へ移動させる等の操作で、気を付けるべき点を、理由とともに書きなさい。

〔生徒の記述〕

菌が入らないように、素早く行う。実験器具は直前に開封し、清潔なものを使用する。

ワークシートの記述例

事例5 外国語科(英語コミュニケーションⅠ)

評価方法

ペーパーテスト

目標 社会的な話題(環境・共生)について、自分の考えを理由とともに話して伝えるために必要となる言語材料(語彙・表現)を理解する。

指導 の工夫

単元ごとの重要語彙や表現の確実な定着を図るために、**小テスト、言語活動、パフォーマンステストとペーパーテスト(定期試験)を関連付けるよう心掛けた。**小テストで語彙や表現を確認させ、それらを言語活動で使用する場面を設定した。さらに、パフォーマンステストでも使用する場面を設け、後日、ペーパーテストで定着度を確認するという流れとした。

評価 の工夫

重要語彙や表現が身に付いているかを記述式で評価した。設問の形式は穴埋め、並べ替えなど一般的なものであるが、題材と異なる英文を使用することで、語彙や表現の定着度を確認できるように工夫した。

(4) Complete the conversation by filling in the blanks using the words in the parentheses.

1 A: Hello. I'm sorry for coming late.

B: I want to know _____. (late, the reason, you're, why)

2 A: Wow! You are really good at cooking.

B: How did you get that skill?

A: I watched what my mom did. _____.

(is, I, the skill, learned, this, how)

(5) Put the Japanese sentences into English.

1 リサは彼女に与えられたあらゆる機会を利用した。

Lisa took () of every opportunity that was afforded to her.

2 私は、ニューヨークに住んでいる兄と連絡を取り合っている。

I stay () () with my brother who lives in New York.

3 両親はこの夏、友だちと一緒にヨーロッパに行かせてくれた。

My parents () me () to Europe with my friends this summer.

ペーパーテスト

評価の事例 「思考・判断・表現」

各事例の詳細は、当センターWebサイトに掲載しています。(p.10参照)

「思考・判断・表現」は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価します。

具体的な評価方法

- ・ペーパーテスト、ワークシート
- ・論述、レポートの作成
- ・発表、グループでの話し合い
- ・作品の制作や表現 等

事例6 公民科(公共)

評価方法

ワークシート

目標 ルールの運用に関わる課題を理解するとともに、よりよいルールづくりに必要なことについて考察する。

指導の工夫

日常生活の一場面を題材として、生徒同士で話し合い、**相互の考えを比較しながら、自らの考えを再構築する場面を設定した。**

評価の工夫

よりよいルールづくりと運用について、**ワークシートに記述された内容を評価した。**生徒が記述しやすくなるように、二つの考えをまとめるよう問いに示した。

〔問い〕

どのようにルールを決め、どのように運用したらよいかという問いに対する自分の考えをまとめよう。

「ルール」は、人の行動を制限するために決まっています。
決めた人の思い通りにどのように運営され
ししょう。「ルール」は、しっかり考えてから作るべき
で、人をただ強制するための不快感を生
み出すものではありません。

ワークシートの記述例



生徒同士で話し合う様子

事例7 理科(生物)

評価方法

ワークシート

目標 コロニーを形成できた酵母菌とできなかった酵母菌の違いから、酵母菌がどのように変化したのかを考察し、表現する。

指導の工夫

酵母菌が最少培地で生育可能となる条件に気付かせるために、資料から遺伝子や酵母菌の特徴を読み取らせ、実験結果や既習事項と関連付けながら考えるように促し、**生徒同士で話し合って深めた考察を基に、個人でワークシートにまとめさせた。**

評価の工夫

実験結果を考察して、酵母菌が最少培地で生育できる条件と、酵母菌がどのように変化したかについて、**具体的に記述できているかどうかを評価した。**

〔問い〕

最少培地でコロニーを形成できた酵母菌とできなかった酵母菌の違いを比較しながら、酵母菌がどのように変化したのかをまとめなさい。

〔生徒の記述〕

ウラシル欠損酵母菌にウラシル合成遺伝子を導入したことで、酵母菌はウラシルを合成できるようになり、最少培地でもコロニーを形成することができた。コロニーを形成できなかった酵母菌は、ウラシル合成遺伝子が導入できていなかった。

ワークシートの記述例



生徒同士で話し合う様子

目標 三角形において与えられた三つの条件と、三角形の決定条件との関連を表現することができる。

指導の工夫

2辺とその間でない一つの角度が与えられた三角形に関して、個人で考えてからグループで話し合うことによって、三角形が一つに定まるときと定まらないときがあることに気付き、その条件の違いを、**新たな問いとして考えることができるようにした。**



グループで話し合う様子

評価の工夫

記述の内容から、三角形の合同条件に着目して**三角形が決定する条件を説明することができるかを評価した。**ワークシートを使ってこれまでの学習を振り返り、与えられた条件と三角形の合同条件を関連付けて考えることができるようにした。

これまでの学習を振り返り、三角形において最初に与える3つの条件から、残りの辺の長さや角の大きさが1つに定まる問題を作成したい。次の文章の に当てはまる、条件を考えなさい。

△ABCにおいて、 のとき、
残りの辺の長さや角の大きさを求めよ。

$A = 30^\circ, B = 45^\circ, c = 3$

$a = 2\sqrt{3}, b = \sqrt{3}, C = 50^\circ$

$a = \sqrt{3}, b = 4, c = 5$

三角形の与えられている3つの条件と、三角形の辺の長さや角の大きさが定まることの関係について、気づいたことをまとめなさい。また、他にわかったことについて書きなさい。

- 三角形の2辺とその間の角が定まっているとき、他の値も定まる
- 三角形の1辺とその両端の角が定まっているとき、他の値も定まる
- 三角形の3辺すべてが定まっているとき、すべての角も定まる

ワークシートの記述例

事例9 外国語科(英語コミュニケーションⅠ)

目標 社会的な話題(環境・共生)について、聞いたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。

指導の工夫

複数の単元(1学期と2学期に実施)において、「話すこと(発表)」の領域の資質・能力の育成を目指した。与えられた課題に対して、最終的に即興で話せるように、1、2学期を通して、段階的に難易度を上げながら言語活動を行った。**1学期からルーブリック(評価の基準)を生徒に示した上で言語活動をしていたため、2学期においても、生徒に目標を意識して取り組ませることができた。**

評価の工夫

論理性に注意しながら理由とともに話しているかを、ルーブリックを用いて評価した。評価の際には、1人1台端末で録画したプレゼンテーションを、教師がルーブリックで評価したため、評価に対する信頼性を高めることにつながった。さらに、振り返りシートの記述を加えて「主体的に学習に取り組む態度」も評価した。

パフォーマンステストのトピック

Do you think we should protect nature? Yes or No?
Please give two reasons why for your opinion.

評価	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	小さなミスはあるが、意味が伝わらない箇所はない。	自分の意見と意見を支持する適切な理由を2つ以上述べている。	はっきりと聞こえる声で、画面に向かって効果的に話そうとしている。
b	伝わらない箇所が1つある。	自分の意見と意見を支持する理由を1つ述べている。	聞こえる声で画面に向かって話そうとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

ルーブリック



パフォーマンステストの様子

評価の事例「主体的に学習に取り組む態度」

各事例の詳細は、当センターWebサイトに掲載しています。(p.10参照)

「主体的に学習に取り組む態度」は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、粘り強く学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を長いスパンの中で評価します。

具体的な評価方法

- ・ワークシート
- ・振り返りシート
- ・ノート、レポート等の記述
- ・授業中の発言、行動観察
- ・生徒の自己評価や相互評価 等

事例10 数学科(数学Ⅰ)

評価方法

振り返りシート

目標 三角比について、単元の学習を振り返り、学習内容を深く理解したり、自身の学習を改善したりしようとする。

指導の工夫

この単元で学んだことを統合的・発展的に考えることができるように、単元のまとめの問題に取り組ませた。振り返りシートに記述してきた**小单元ごとの振り返りの記述内容を見ながら、全体の振り返りを記入させた。**

評価の工夫

学習内容を深く理解したり、今後の学習に向けて自身の学習を改善したりしようとしているかを、**単元全体の振り返りの記述で評価した。**

振り返りシート

〔問い〕

数学の学習について、今後、どのように取り組んでいこうと考えたか、単元の学習を振り返って、書きなさい。

〔生徒の記述〕

正弦定理や余弦定理をただ覚えるのではなく、公式の意味を理解すると図形への見方や考え方が増えて、公式を活用して問題を解くことができるようになる。

単元全体の振り返りの記述例

事例11 理科(生物)

評価方法

ワークシート

目標 単元全体の学習や実験を踏まえて、遺伝子組換え技術について、自分の意見を主体的にまとめる。

指導の工夫

単元の学習を通して、遺伝子組換え技術に対する考えがどのように変化したのかを実感させるために、単元の学習前後での遺伝子組換え技術のイメージの違いを比較させた。また、遺伝子組換え技術の有用性に着目できるように、技術がどのような場面で活用できそうか、**日常生活や既習事項と関連付けながら生徒同士で話し合う場面を設定した。**

評価の工夫

単元を通して学んだことを踏まえて、自分自身の考えがどのように変化したのかを**具体的に記述できているかどうか**を評価した。

〔問い〕

単元全体や実験で学んだことや、遺伝子組換え技術のイメージがどのように変化したのかを踏まえて、遺伝子組換え技術の展望について、自分の意見を自由に書きなさい。

〔生徒の記述〕

実験前は、体に悪そうなイメージがあったが、今は遺伝子の性質によっては良いこともあるかもしれないと思うようになった。導入する遺伝子によって、さまざまな性質を持つ生き物がつくれるようになり、植物の品種改良に活用して、変わっていく地球環境に適応した植物をつくっていきたい。

ワークシートの記述例

目標 意見文を書くことを通して、自分の考えを読み手に的確に伝えるため、根拠の示し方や説明の仕方について粘り強く考え、自らの学習を調整する。

指導の工夫

同じ統計資料を活用して意見文を書いた生徒同士でグループを作り、相互評価シートを用いて互いの意見文を評価させた。さらに、グループの代表者が意見文を発表し、全体で共有した。その後、**単元全体を振り返りながら、自分の意見文について、課題と改善点を考えさせた。**

評価の工夫

自分の考えを読み手に的確に伝えるための、**根拠の示し方や説明の仕方について、課題と改善点が具体的に記述できているかどうか**を評価した。



全体で共有する様子

〔問い〕
相互評価、全体発表を踏まえて、自分が書いた意見文の良かった点、改善すべき点について具体的にまとめる。

〔生徒の記述〕
自分の主張とその根拠の関係を確認しながら、読み手に伝わる意見文を書くことができた。今後は、根拠にした統計資料を複数のデータで比較したり、統計資料を自分に引きつけて考えられるような具体例を加えたりして、より説得力のある文章を書いてみたい。

振り返りシートの記述例

事例13 公民科(公共)

目標 よりよく生きることができる理想の社会の在り方について、考えが深まるきっかけとなった意見や、新たに加わった視点などを踏まえて、理想の社会の実現に向けて自覚を深める。

指導の工夫

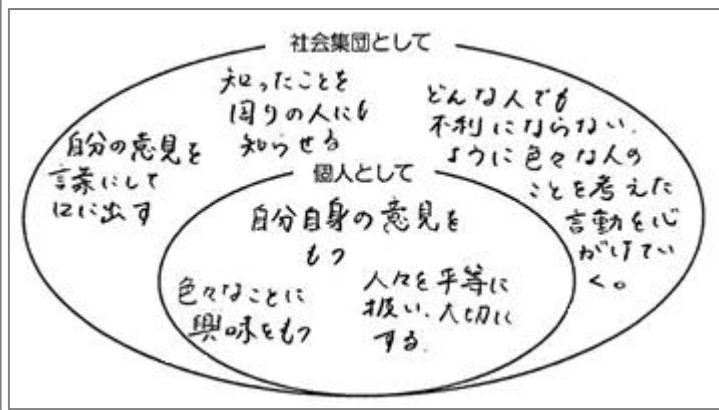
単元の学習内容を振り返った後に、よりよく生きるために社会はどのようにあるべきかについて、**自分の考えをまとめてグループで発表し合い、考えを共有する場面を設定した。**教師自身の考えも生徒に示しながら、共に考えられるよう授業を展開した。

評価の工夫

単元で学習したことを踏まえて、自分がどう生きるか、社会とどのように関わっていくかという自分の考えを、**記述例のようなワークシートにまとめさせ、その記述内容を評価した。**考えを構造的に確認できるようにしたことで、生徒の学びの深まりを捉えやすくなった。

〔問い〕

よりよく生きることができる理想の社会について、自分がどう生きるか、社会とどのように関わっていくかという自分の考えを下図にまとめたさい。



ワークシートの記述例



グループ内で考えを共有する様子

単元（題材）における学習評価の進め方

学習評価を行うに当たり、まずは指導と評価の年間計画を確認し、その上で、単元（題材）の指導と評価の計画を立てることが重要です。

評価の進め方

留意点

単元（題材）の
目標を作成する

- ・学習指導要領の目標や内容、生徒の実態、これまでの学習状況等を踏まえて作成する。



単元（題材）の
評価規準を作成する

- ・評価規準は、「～している」のように生徒が目標を実現している状況として記述する。



指導と評価の
計画を作成する

- ・目指す資質・能力を育成するために、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現につながるよう、どのように指導していくかを検討する。
- ・評価の場面と方法を計画する。
- ・「記録に残す評価」は、実現状況を把握できる段階で行うなど場면을精選する。



授業を行う

- ・指導と評価の計画に沿って「指導に生かす評価」や「記録に残す評価」を行い、評価結果を生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。



観点ごとに総括する

- ・集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A、B、C）を行う。

当センターのWebサイト掲載資料について

当センターのWebサイトに、県内の先生方が学習評価のポイントを意識して実践した授業と評価の事例を教科ごとに掲載しています。

各教科の事例は、こちらに掲載！



見どころ①

4 指導と評価の計画（7時間＋ペーパーテスト）

「指導と評価の計画」の工夫

- ・生徒が身に付けた知識を活用して思考できるように、1～3時間目に知識を身に付け、4～6時間目に科学的に探究する場面を設定した。
- ・4～6時間目の科学的に探究する場面では、生徒が理科の見方・考え方を働かせるとともに、生徒同士の対話の場を意図的に設定し、主体的・対話的な深い学びの実現を目指した。
- ・7時間目に、単元全体で学んだことを日常生活と結び付けて考える場面を設定し、今後の生物の学習につなげられるように配慮した。
- ・実現状況が把握できるように、記録に残す評価をする場面を、4～6時間目に3観点バランスよく設定した。

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法等
	・遺伝子の単離と増幅のしくみを理解する。			・遺伝子の単離と増幅のしくみについて、酵素やベクター、温度変化による作用の違いを理解してい

計画を立てる際の工夫

単元（題材）を見通して、「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」の場面を、どのような意図で、どこに位置付けたのか等、指導と評価の計画を立てる際に工夫したことをまとめました。

見どころ②

（3）指導と評価の流れ

【指導の工夫】

- ①実験に使用した酵母菌、導入した遺伝子や培地の特徴について、資料から読み取って実験結果を予想し、生徒同士で話し合う場面を設定した。
- ②各操作の目的を理解しながら実験に取り組めるように、資料と実験器具の実物を見ながら、実験手順や器具の特徴を生徒同士で確認させた後に、教師が操作のポイントについて補足を加えた。
- ③実験器具を安全に取り扱えるように、生徒が作業する様子を行動観察した。
- ④操作したことを踏まえて、操作の留意点をワークシートにまとめた。

【評価の工夫】

- ・実験器具が滅菌されている理由や実験上の留意点について、操作したことを踏まえて具体的に記述できているかどうかを評価した。

学習場面	学習活動	学習活動における具体的評価規準・《評価方法》
	・これまでの学習や日常生活を振り返って、遺伝子組換え技術に対するイメージをワークシートに記入する。	

授業を展開する際の工夫

授業を展開する上での〔指導の工夫〕や〔評価の工夫〕を具体的にまとめました。

見どころ③

（4）「知識・技能」の評価例

＜問い＞

実際に生きた酵母菌を培地から培地へ移動させる等の操作で、気を付けるべき点を、理由とともに書きなさい。

【評価Bの例】

＜生徒の記述＞

菌が入らないように、素早く行う。実験器具は直前に開封し、清潔なものを使用する。
理由は不十分であるが、操作上の留意点が具体的に記述できているので、評価Bと判断した。

【評価Aの例】

＜生徒の記述＞

実験器具を滅菌状態に保ったまま操作できるように、器具を使用する直前に袋から出す。カビなどの胞子が入らないように、外気との接触をできるだけ少なくし、すぐにフタをする。
滅菌された器具を包装から取り出してすぐに使用したり、培地のフタを素早く開閉したりする等の留意点が、菌の混入を防止するという理由とともに記述できているので、評価Aと判断した。

評価の具体例

観点ごとに、どのように評価したのかを具体的に示しました。

学習評価 Q&A

当センターが行った学習評価に関する校内研修において、先生方からいただいた質問の中から、多かったものを掲載しました。

Q

「活動は積極的ではない生徒が、文章力があって上手にレポートをまとめた」場合は、「思考・判断・表現」は高く、「主体的に学習に取り組む態度」を低く評価するのですか？

A

単に積極性の有無や、上手にレポートをまとめたかどうかで評価するのではなく、目標に準拠した評価、つまり学習指導要領に示された目標がどの程度実現したのかを評価することが大切です。

Q

授業のために、生徒が事前に調べたものは評価の対象にしてよいですか？

A

観点別学習状況の評価は、目標に準拠した評価です。教科・科目等の目標や評価規準の枠組みの中に、事前学習の内容も含まれるのであれば、評価の対象にすることが考えられます。

Q

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の際に、教師の主観が入る余地が多分にあると思います。評価の妥当性や信頼性を高めるためにはどのようにすればよいですか？

A

評価の妥当性、信頼性を高めるためには、評価計画を立てる段階から評価を実施する段階まで、教師間で共通理解を図ることが大切です。また、評価規準や評価方法をシラバスに記載するなどして、生徒や保護者と共通理解を図ることも大切です。

Q

「主体的に学習に取り組む態度」を他の2観点から切り離して評価することはできますか？

A

他の観点から切り離して評価することは適切ではありません。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、「知識及び技能」を習得させたり、「思考力、判断力、表現力等」を育成したりする場面に関わって行います。このため、単元の導入の段階では観点別の学習状況にばらつきが生じていても、指導と評価の取組を重ねながら授業を展開することにより、単元末や学期末等に算出する観点別学習状況の評価では、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の観点ごとに大きな差は生じないものと考えられます。

Q

単元(題材)で、3観点すべての評価を行わなければならないのですか？

A

基本的には、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成することが大切です。ただし、一つの単元で必ず全ての観点について評価しなければならないということではありません。単元の目標や学習内容、学習活動に基づき、二つの観点に絞って評価することや、複数の単元をまとめて評価する、または単元を複数に分けて評価するなど、学校ごとに評価の工夫改善を行うことが大切です。

